

南山田のアスパラ栽培

2015.8.28



聞き書きの会のメンバーからアスパラガス畑の撮影を要請され朝一番で南山田にでかけた。これまでは漫然と自然の景色を撮影していたが今回は具体的なターゲットをもらいやや力が入る。

ところが畑の場所が分からない。老人介護施設の下と言うのが見当たらない。下の方のアスパラガス畑まで下って、収穫中の人に尋ねると、どんどん奥に入った、施設の駐車場の隣だと言うことで再度坂を登り直す。

6時15分。朝日はいかにも夏の終わりを思わせるくぐもった感じだ。





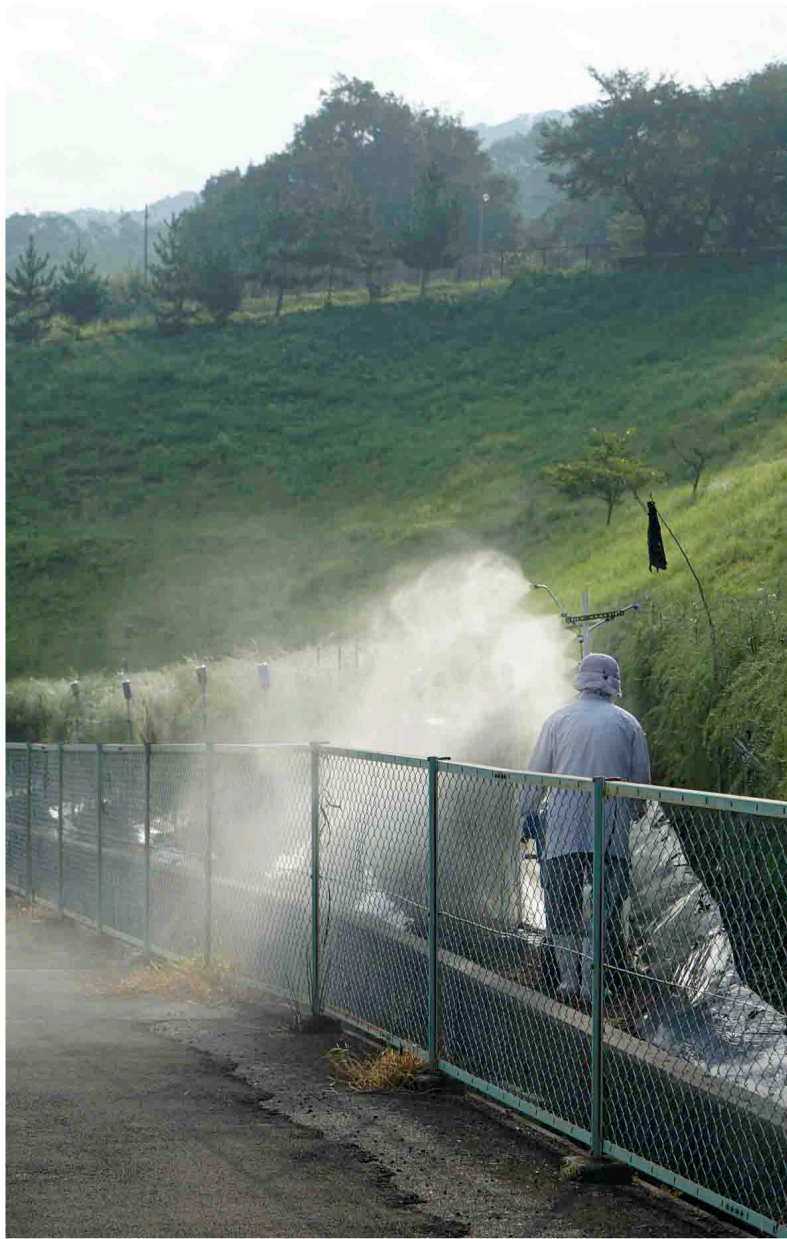
人様から撮影指示をもらうと、普段は行かない様な場所に出かけることになり、新しい景色を発見できる。今回もそうだ。複雑に入り組んだ山峡の斜面にため池を作り、そのそばに集落が展開している。その向うの中山にこの秋初めてくらいの霧雲がまとわりつく。里山特有の眺めだ。



施設を見上げる駐車場に着くと正面に金網で囲まれた畑が見える。斜面に広がっているので遠くから見るとまるで葡萄畑と思えるが、目指すアスパラガス畑だ。想像とは全く違う潇洒な感じだ。

駐車場からは送迎バスが1台出発して行った。





近づくと畝の間を移動できる専用車で農薬を散布している。「おはよう！」と声をかけるとマスクを外してこちらに来てくれる。畑の撮影に来た旨を伝えると、予定を聞いていたらしく、収穫前の畑を撮影するのが良いと奥の方を指差してくれる。この車はどうしたのか？と聞くと何と、ご自分でノズルを買ってきてポールに付け、まんべんなく噴霧できる様に改造したらしい。聞き書きをさせていただいたお爺さんの息子さんだ。



指示に従い畑の上の方に向う。アスパラガスの背丈が高いので畝の間の溝を一本一本見ないとどこにいるのか分からない。それにしてもこの整然たる様子はどうだ。遠目に葡萄畑と見えたが、丁寧な手が入って見事に整備されている。30mほども向うで原野義正さんが収穫の真っ最中だ。



原野さん、朝の5時くらいからとっての付いた猫車
に買い物かごを2つ乗せて収穫に忙しい。畑は2反5
畝あり、嫁さんと二人で毎日収穫するが、最盛期の5
～6月にはかごに8杯、7～8月が5杯、9月は2杯
ほどの収穫とのことだ。それをまとめて毎朝10時半ま
でに農協に収めている。アスパラを作り始めて30年、
この畑では9年になると言う。撮影のことは聞いてい
たらしくいろいろ説明して下さい。87歳、お元気だ。





畑には塩ビのパイプが通っている。下側に小さな穴が開いていて水を流すとぼたりぼたりと滴り落ちる。それを毎日40分ほど繰り返す。パイプは全部で250本もあり、たまたま石油ショック前に購入できたので助かったと言う。



最盛期は過ぎ、出てくる新芽は大分細くなった。密生した葉が養分を送るが、さすがにこの時期になるとくたびれ気味になるのだとのことだ。

30年前初めてアスパラを植えた折には試行錯誤をしたが原野さんは土の底に落ち葉や茅を鋤き込んで畝を盛り上げるやり方をしてみた。こうすれば根に酸素が行くと考えた。その結果、4年後にはそうしなかった株はほとんどが消え、原野さんの株は残った。以来、この栽培方法を続けている。しかし、作業は大変で、誰もがこの方法をとっているわけではないとのことだ。





あたりには急に秋の気配が萌し始め、北側の中山の山腹には朝霧が舞い、まるで南天の様なアスパラガスの実が付いた。





アスパラガス畑の西の棚田から南山田を見晴るかす。
中山と龍王山に挟まれた山峡越しに伽藍山が見える。
この地では、この台地の色彩をそのままにまとったようなアスパラガスが栽培されていることを実感した。
「矢掛碧翠アスパラ」とでも名付けてはどうか。